

## 平成 28 年度北信越ブロック女性審判講習会 報告書

日時・場所： 平成 28 年 5 月 3~5 日 いしかわ総合スポーツセンター

使用ゲーム： 第 50 回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦  
女子 2 部のゲームを利用した講習

目的： 女性審判員を強化育成し、上級審判員を輩出するために重点審判員を推薦する。

受験者： 榎本 麻衣 (長野県) 28 歳  
壬生 朱音 (長野県) 24 歳  
斎藤 寛子 (新潟県) 34 歳  
星山 尚子 (新潟県) 33 歳  
石野 美紀 (新潟県) 25 歳  
河辺 真輝 (石川県) 26 歳  
下東 綾 (福井県) 26 歳

計 7 名

合否基準： 6 月開催の北信越総体にノミネートするにあたり以下を重視する。

- ①判定の一貫性
- ②マニュアルの理解度
- ③ゲームマネジメント
- ④四原則の理解と徹底
- ⑤プレゼンテーション

その他： 講義を実施する。

◎審議の結果、下東 綾 氏 (福井県) を推薦します。

補足： 推薦者は日本公認 B 級 1 年目ということもあり、経験不足であることは否めませんが、それ以上に、触れ合いの責任を理解した判定、ゲームの展開に合わせたポジショニング、走力を含むプレゼンテーションから将来性を感じました。

## ◇評価と課題

### ○榎本 麻衣（長野県）

ゲーム中に自分のスタンスを大きく崩してしまうことも減少し、安定感は少しずつ増しているように感じます。ですが、プレイを追いかけその上で判定を下しているためプレイを長く捉えることができておらず、確認できなかったものはほぼ反応できておりませんでした。オフェンスとディフェンスの位置関係から次に何が起こるかを推測しポジションを変え、プレイを待ち構えるといった作業を繰り返し行うことで良い判定に繋がると思います。

### ○壬生 朱音（長野県）

以前よりも判定やポジション取りに安定感が増してきました。一方で、選手の意図を感じ取った判定や、ゲームの重要な場面での対応に課題を感じます。人柄を感じる丁寧なレポートや、切れのある力強い笛の音は見本となるものです。判定の上でも更なる高みを目指しトライしてほしいと思います。

### ○斎藤 寛子（新潟県）

芯の強さを感じる堂々としたプレゼンテーションは信頼を得られるものだと感じました。ボールを追いかけてしまうが故に、全体的にプレイを後追いで捉えてしまっています。リードでは支柱近くに留まることが長くなっています。ボクシングインを心掛け、2人で協力をしてプレイを捉える意識を高めて欲しいと思います。

### ○星山 尚子（新潟県）

ゲームの再開を早く行うなど判定以外の部分においても積極的にゲームに関わっている印象を強く受け取ります。ですが、エリアや相手審判を意識せず自分がみたいものを自分で感じたままに判定してしまうため、安易にブラインドから判定することが多く、ボール中心の視野が目立っていました。一つ一つのプレイをどちらの責任範囲であるのか、どちらが判定すべきスペースであるのかを今一度こだわり追求していくことで判定内容が変わってくるのではないのでしょうか。

### ○石野 美紀（新潟県）

恵まれた体格は魅力的で、緊張することもなく堂々とコートの中で存在感を感じます。まずはリードで受ける意識をさらに持ち足を運ぶこと、トレイルでは横のスペースを捉えることを意識したポジショニングが習慣化されると良いと思います。また、身長があるが故に猫背になってしまうことや正しいシグナル、ジェスチャーといった基本的なプレゼンテーションにおいても大切さを感じていただけるとさらにコート上での存在感が増すと思います。

### ○河辺 真輝（石川県）

判定をしようとするあまり、プレイに近づきすぎて正しい判定につながらないケースが多々ありました。特にリードでは、コートの中まで踏み込んでしまうことも。マニュアルの理解を深め、パートナーとの責任、役割分担を考えたレフェリングが求められます。

○下東 綾（福井県）

ゲームの展開に合わせて自然と足を運ぶことで、ゲームにマッチした判定が多く見受けられました。今の感性を大切にしたいと思います。一方でゲームを運営するという面では弱さを感じます。いろんなカテゴリーでのゲーム経験を重ね、対応力を高めてほしいと思います。

◇全体をとおして

どの方も、自分の持てる力を発揮し、コート内外で積極的に取り組んでいただきました。1試合目より2試合目の方が、より良い位置からの判定が増えており、課題を克服すべく、それぞれが工夫をしてトライしている姿勢が伺えました。

全体的に笛を吹くこと、判定を下すことが中心となり、プレイの質やゲームの流れを感じ取る力が不足しているように思います。ボールを中心に捉えていることが多いため、マニュアルの指導が主となってしまいました。チームがどのようにプレイを組み立てているのか。中心となる選手は誰なのか。得点と残り時間から推測される事柄など、情報を活かしたレフェリングを心掛けると、ゲームにマッチした判定が増えるように感じました。

“女性上級審判員の審判を見たい” “一緒に吹きたい” という意見を数多くいただきました。同じ大会、同じゲームにて審判をすることで、学ぶこともあるかと思います。次回の検討事項とさせていただきたいと思います。

リオ・オリンピックを控え、女子バスケットボール界への注目が高まっています。競技レベルは審判員のレベルに比例すると言われていた中、継続した女性審判員の育成の場を設け、サポートいただいていることに深く感謝しております。受講生には今回学んだことを地元の審判員の皆さんと共有いただけるようお伝えしました。日々の活動の中で、引き続きご指導いただきますようお願い申し上げます。

報告者 中江 洋美（石川県）

尾形 美樹（長野県）